

令和4年度第3回人間文化研究機構教育研究評議会 議事概要

- 日 時： 令和4年11月17日(木) 14:00~15:59
- 場 所： 総合地球環境学研究所講演室 Web会議システム「Zoom」
- 出席者： 井上、神作、木部、栗本、クレインス、佐藤、設楽、関沢、田中、田窪、陀安、西谷、野家、平井、堀、松本、三田村、宮崎、山極、吉田(和)、吉田(憲)、渡部の各評議員
- 陪席者： 若尾理事、小泉監事、丸山事務局長
- 事務局： 監査室長、歴博、国文研、国語研、日文研、地球研及び民博の各管理部長、本部事務局の総務課長、研究企画課長、財務課長、施設課長、研究企画課課長補佐、財務課課長補佐、その他関係職員

○ 概 要：

議事に先立ち、事務局から、会議の定足数を満たしている旨の報告及び配付資料の確認等があった。また、機構長から、総合地球環境学研究所の施設見学についての意見交換があった。

議 題：

(議事概要)

(1) 令和4年度第2回議事概要について(資料1)

機構長から、令和4年度第2回教育研究評議会の議事概要について報告があった。

(審議事項)

(1) 国立国語研究所次期所長の選考について(資料2)

機構長から、資料2に基づき、国立国語研究所所長が令和5年3月限りで任期が満了することに伴い、教育研究評議会の意見聴取を行う旨の説明があった。

続いて、宮崎理事から、回収資料に基づき当該機関の運営会議における次期所長候補者の選考の概要及び候補者として推薦された者等について説明があった後、意見聴取が行われた。

意見聴取の結果、特段の意見が無かったことを受け、機構長から選考手続きを進めていく旨の発言があった。

(2) 国立民族学博物館次期館長の選考について(資料2)

機構長から、資料2に基づき、国立民族学博物館館長が令和5年3月限りで任期が満了することに伴い、教育研究評議会の意見聴取を行う旨の説明があった。

続いて、宮崎理事から、回収資料に基づき当該機関の運営会議における次期館長候補者の選考の概要及び候補者として推薦された者等について説明があった後、意見聴取が行われた。

意見聴取の結果、特段の意見が無かったことを受け、機構長から選考手続きを進めていく旨の発言があった。

(3) 機構長戦略室の設置について(資料3)

機構長から、資料3に基づき、機構長戦略室の設置について説明があり、審議の結果、了承された。

(報告事項)

(1) 研究教育職員の懲戒について(資料なし)

宮崎理事から、研究教育職員の懲戒について報告があった。

(2) 令和5年度概算要求の状況について(資料4)

宮崎理事から、資料4に基づき、令和5年度概算要求の状況について報告があった。また、堀

理事から、DH 事業に関して補足説明があった。

(3) 人間文化研究創発センターの活動状況について (資料5)

宮崎理事から、資料5に基づき、人間文化研究創発センターの活動状況について報告があった。また、堀理事から、DH 事業に関して補足説明があった。

また、本件に関し、以下の質問があった。

- ・ 「開かれた人間文化研究を目指した社会共創コミュニケーションの構築」に記載されている人文知コミュニケーターは文理融合とは違うように思われるが、具体的な説明をお願いしたい。

⇒ 人間の文化に関わる研究に関して、社会に分かりやすい言葉で発信する必要があるという課題を発端として、人文知コミュニケーターという発想が生まれた。サイエンスコミュニケーターのように、専門職になっていくのではなく、既にドクターを取得している方に研究活動を続けてもらいながら、社会に発信するスキルを獲得し、新たな研究者のイメージをつくることを目指している。

(4) 第3期中期目標期間に係る法人評価について (資料6)

栗本理事から、資料6に基づき、第3期中期目標期間に係る法人評価について報告があった。

(5) 環境報告書 (令和3年度版) の作成・公表について (資料7)

宮崎理事から、資料7に基づき、環境報告書 (令和3年度版) の作成・公表について報告があった。

(6) 第4回人間文化研究機構日本研究国際賞受賞者の決定について (資料8)

若尾理事から、資料8に基づき、第4回人間文化研究機構日本研究国際賞受賞者の決定について報告があった。

(7) 国立大学法人総合研究大学院大学と大学共同利用機関法人及び国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構との連携協力に関する協定書の変更について (追加資料)

丸山局長から、追加資料に基づき、国立大学法人総合研究大学院大学と大学共同利用機関法人及び国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構との連携協力に関する協定書の変更について報告があった。

以上